

ビオトープだより第 67 号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 書籍紹介『アイヌ民族への知の返還－民族誌情報の還元と活用』（京都大学学術出版会）

副会長、北海道・東北地区委員長、主席BA、(株)エコリス 佐竹一秀

昨年度「ビオトープフォーラム in 札幌 2025」の開催にあたり、平取町遠藤桂一町長はじめ関係者には大きく関わって頂きました。特に町アイヌ施策対策課学芸員であります吉原秀喜氏には大変お世話になり、その後当協会の個人会員、さらにはビオトープアドバイザー認定も取得され活動されています。

この度、2026 年 3 月京都大学学術出版会より発行されました『アイヌ民族への知の返還－民族誌情報の還元と活用』（大西秀之編）につきまして、吉原秀喜氏よりご紹介がありました。470 ページを超える学術書で、吉原氏も重要な部分で約 50 ページにわたり執筆されています。このなかで取り上げられている「イオル」あるいは「IWOR」は「アイヌの伝統的生活空間」の事であり、イオル再生のための取り組みが行われています。イオルはもともとアイヌ民族の個人や集団の狩場や生活素材を得る林野、水辺の採取場、区域を意味する言葉です。そのイオルの再生事業はビオトープの理念に重なりあう部分も多く、参考とすべき点多々あります。

本書では、過去にアイヌ民族から収集した民族誌情報を、関係する個人やコミュニティに返還するために直面する難問やクリアすべき課題を提示しています。その上で、多様な背景や見解を有する個々人としての存在を軽視したり、またエスニシティを平板に捉えたりしてしまうことなく、民族誌情報の返還をめぐる想定されるさまざまな意見や主張に対し、いかなる応答が求められるかの検討を試みています。生態系再生、あるいはビオトープと在地文化との関係性を考える上で、示唆に富む知見が多い書籍です。

詳細は下記 QR コード又はサイトからご覧戴き、興味ある方は是非ご入手ください。事務局には吉原氏から献本されています。

<https://www.kyoto-up.or.jp/books/9784814006427.html>

